

令和 6 年度
学校関係者評価結果報告書

令和 7 年 6 月 10 日

学校法人西田学園
アルファ医療福祉専門学校

学校関係者評価委員会報告書

学校法人西田学園 アルファ医療福祉専門学校は、令和7年6月4日に「令和6年度 学校自己評価表」に基づいて学校関係者評価を実施しましたので、以下の通り報告いたします。

令和7年6月10日作成
学校法人西田学園
アルファ医療福祉専門学校
学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価委員出席者 定員 5名

- (1) 榎本 耕（社会福祉法人桐仁会 かえで園施設長）
 - (2) 小磯 英次（社会福祉法人たけのうち福祉会理事長）
 - (3) 柿原 直哉（社会福祉法人福愛会 藤井保育園園長）
 - (4) 松坂 健志（社会福祉法人東の会みたけ施設長）
- ※欠席：柾屋 富治郎（町田市接骨師会会长長）

学内出席者 2名

- (1) 瀧 将仁（校長）
- (2) 平田 篤史（教務課課長）

3. 会議の概要

(1) 校長挨拶

開会挨拶の後、職業実践専門課程及び学校関係者評価委員会についての概要、趣旨説明。

(2) 出席委員紹介

(3) 学内出席者紹介

(4) 本校概要説明

本校の沿革、学科、生徒数、就職状況等について説明。

(5) 令和6年度自己評価結果について

自己点検・自己評価報告書をもとに、項目ごとの自己評価、課題、改善策について説明をした後、出席委員との意見交換、質疑応答が行われた。

4. 学校関係者評価結果

大項目	学校関係者評価
基準1 教育理念	<p>評価：適切である。</p> <p>課題：近年のめまぐるしい社会変化に耐えうる、柔軟な考えをもつた専門職養成に励んでいる。保護者への周知も出来てきているが、地域への発信や活動には今後の課題あり。</p> <p>改善策：年々変化する社会ニーズについては、外部機関からの意見を取り入れて客観的な評価のもと改善を図る。人材育成像等の周知については、HP や SNS を活用し機会は増えている。周りの地域・社会との連携については、各自治体の活動に参加し、地域・社会貢献に励み改善を図る。</p>
基準2 学校運営	<p>評価：適切である。</p> <p>課題：学校運営を円滑に進めるためにも、学内情報の一元化、各基幹管理システムの見直しが課題である。</p> <p>改善策：校内に存在する基幹システムの効果の検証および、各システムに与える役割の見直しを行いシステム選定を進める。</p>
基準3 教育活動	<p>評価：適切である。</p> <p>課題：年々多様化する教育活動の状況より、より専門的な教職員への研修体系の整備・仕組み化が課題である。社会情勢の変化に対応できる教職員としての質の向上が必要である。</p> <p>改善策：各外部機関とも連携の上、教職員に対しても多様な人材を養成できるよう個別最適化された研修制度の検討を進める。また、専門領域の習得のみならず、実践で活かせる機会の検討を進める。</p>
基準4 学修成果	<p>評価：やや不適当である</p> <p>課題：卒後の活躍状況については確認できているが、カリキュラムや在校生への著しい還元には活かせていない。</p> <p>改善策：令和6年度、ホームカミングデーを全学科で実施が出来たことから、卒業生と学校で集まれる機会は創出できた。今後集まれる機会をより効果的にするための仕掛けを検討する。</p>
基準5 学生支援	<p>評価：適切である</p> <p>課題：卒業生の管理・支援体制を一元化する必要がある。各研修の実施、有資格者への技術向上支援については適宜案内できる状況があるため、卒業生への一元化された支援体制整備が課題である。</p>

	<p>改善策：卒業生がアクセスしやすい活用できるプラットフォームの整備。また普段の教育活動や各種イベント、学校からのお知らせについて、直接的に訴求ができる体制作りを検討する。</p>
基準 6 教育環境	<p>評価：適切である。</p> <p>課題：学生のより良い教育環境での学びを深めるためにも実習施設以外の学外の教育環境整備を図る。</p> <p>改善策：学外の教育体制を充実させるためにもインターンシップ制度や各企業・施設との教育連携を推進する。</p>
基準 7 学生募集と受け入れ	<p>評価：適切である。</p> <p>課題：学生募集については、社会的需要や現在の学生背景を勘案し適切に周知している。入学後のカリキュラムや学校生活についても、学生自身が教育活動をイメージできるように今後も施策を検討する。</p> <p>改善策：医療・福祉の学校であることの独自性を活かし、他校との差別化を図る。職業実践教育機関として、現場が求める人材像を明確にし、入学訴求を行う。</p>
基準 8 財務	<p>評価：適切である。</p> <p>課題：学生募集は良好であるが、途中離脱率に 改善の余地がある。引き続き収支全体を考え、費用を抑え経営のスリム化を図る。</p> <p>改善策：入学者の安定的な確保、各部門ごとの予算・経費の見直しを図り財政基盤の安定を目指していく。</p>
基準 9 法令等の遵守	<p>評価：適切である。</p> <p>課題：毎年の教育活動について情報公開を通して掲載していく。各種法令を遵守し定期的な見直し、評価を行う。</p> <p>改善策：学生・保護者はもちろんのこと、産学官含めた外部機関の視点も意識し、改善を図る。</p>
基準 10 社会貢献	<p>評価：適切である。</p> <p>課題：ボランティア活動を通じた、地域貢献・社会貢献を促進しており、活動に参加できている状況はある。今後、地域との繋がりについて明確なカタチを作り、継続性のある実態を目指したい。</p> <p>改善策：産学官連携を図り、定期的な交流や情報交換、地域・社会に根差した活動を協議していく。</p>

4. 学校関係者評価 総括と課題について

項目	評価・意見
自己評価結果についての全体的な評価・意見等	<p>各項目より学校運営全体について良く状況が理解できた。専修学校運営基準に則り堅実に運営している様子が見える。合格率・就職率と良い結果を残したことも評価できる。一方で退学率の苦慮している状況について、今後の具体的な改善を期待したい。特に近年、学校に通う習慣のない学生が増えている状況について、いかに学生にとって通いやすい学校（場所）なのかは重要な意味をもつと思慮する。個別サポートが必要な学生もいることから、長期的な視野でも施策の検討を進めてほしい。また、一部の学科については、学生募集の段階で留学生に力を入れている学校もあり、学生募集の観点からは今度の検討の一つとしても良いかもしれない。</p> <p>卒業生との連携については、アルファの卒業生がうち（委員）の職場で活躍している状況もある。広く活躍の機会を知る術を見つけてもらい、カリキュラムや在校生へ伝え学習意欲やモチベーションアップに繋げてほしい。</p> <p>令和6年度から実施している、産学官連携についてはとても興味深い取り組みである。学生への奨学金体制や現場経験を学ぶ環境の充実など学外との関わりから教育活動全体に良い影響をもたらす可能性もあるため継続して取り組みを強化してほしい。</p> <p>令和6年度の評価としては全体を通して良い評価。今後、各課題点について、より良い教育を推進していくため引き続き努力を期待する。</p>